

米騒動100年映画

百年の蔵

The Rice Granary of One Hundred Years

母ちゃんたちの必死の行動が 一人一人の生きる道を切り開く



それは父ちゃんや家族のお腹を満たすため必死にあげた声からはじまった。米騒動のわずか17日後、魚津町役場は貧民の救済と米の安売りに乗り出す。
なぜ女たちの声は聞き届けられたのか？100年前の事件が私たちに遺したものは？

米騒動の当事者は、もう一人もいない。しかしその暮らしぶりを受け継ぐ漁師の家族がいた。90歳の母69歳の息子とその妹…
家族だけで営む漁。目前に広がる富山湾の恵みをその日その日で獲る素朴な生業。
事件の真相を伝え聞く家族が、静かに語り始める…



漁師の母ちゃん

◆辛抱強く、したたかで、やさしい母ちゃんたちの姿をみよう！



【米騒動】——こめそうどう——

◆米騒動100年映画「百年の蔵」◆

この映画は、魚津の米騒動の知られざる真相を探り、史実を発見するドキュメンタリー作品である！

一九一八年大正七、米價の暴騰のため生活難に苦しんでいた大衆が米の廉売を要求して米屋・富豪・警察などを襲撃した事件。富山縣の魚津に起こって全国に波及し、労働者・農民を主力とする未曾有の大民衆暴動に発展、軍隊が鎮壓に出動したこの事件で寺内内閣が倒れた。(広辞苑より)



一升飯の弁当を
持たせたい

米は毎日食べる分だけ買っていた大正の魚師町。漁に出る父ちゃんには一升飯の弁当が欠かせない。
その一升が、買えない値段にまで高騰した時、母ちゃん達は、一斉に立ち上がった。

米騒動と新聞

1道3府38県、600箇所以上で勃発した米騒動。その全国化に二役買ったのが新聞だった。検挙者25000、死者20数人、重傷は10000人余り、各地の様子を伝える新聞に国家権力は弾圧を加えた。
内閣退陣へと追い込んだ記者たちの闘いぶりとは！。



米屋
非暴力の証言

今も残る米屋には、漁師の妻20名が、米を安く売ってくれと直談判にきたという。
非暴力であった事、しかも漁師の妻たちとの間に、信頼関係さえあったと現当主は語ります。



百年の蔵 (旧十二銀行 米倉)
魚津の米騒動のシンボルとされる大正生まれの蔵。県内現存する米騒動関連、唯一の建築物。今も現役の倉庫。

結末100年目の
新発見

母ちゃん達は食糧危機をどう脱したのか？
百年後の魚津で、新資料が発見された。
そこに記された米騒動の驚きの結末とは？



語り: 佐藤B作 出演: 富山県魚津市の方々・魚津の高校生ほか 監督: 神央 プロデューサー: 三浦庸子・北村皆雄 撮影: 高橋慎二・小野塚正直・黒川佳輔 録音: 西野正義・佐竹樹郎・近 彰彦・中村浩一 整音・効果: 斎藤恒夫 構成: 神央・北村皆雄 編集: 田中藍子 制作デスク: 渡邊有子・山上亜紀 宣伝・配給: 遠藤協 挿絵/イラスト: 谷井健三 学術協力: 紙谷信雄・麻柄一志 後援: 富山県 魚津市 魚津市教育委員会 魚津商工会議所 魚津商工会議所女性会 魚津漁業協同組合 魚津農業協同組合 魚津市観光協会 うおづ女性の会連絡会 国際ソロプチミスト富山一東 株式会社日本新聞社 株式会社新川インフォメーションセンター (NICE TV) 株式会社陸銀行 NPO法人米蔵の会 製作: 『百年の蔵』映画制作委員会 ヴィジュアルフォークロア 助成: 文化庁文化芸術振興費補助金 (映画創造活動支援事業) 独立行政法人日本芸術文化振興会 文部科学省選定 (ブルーレイ/社会教育 (教養) /成人向き) 配給: 〒160-0022 東京都新宿区新宿1-12-12 オスカカテリーナ3F TEL: 03-3352-2291 FAX: 03-3352-2293 E-mail: info@vfo.co.jp HP: www.vfo.co.jp

【パリアフリー上映のご案内】パリアフリー上映 (日本語字幕付き上映、音声ガイド付き上映) を一部劇場にて実施致します。実施劇場、日程については映画公式サイトをご参照ください。

